

実施方法：オンライン（オンデマンド型）

授 業 科 目 名	教育課程編成論(Curriculum and the Course of Study)		
科 目 番 号	9604121	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	通年	曜 時 限	集中(12~1 月頃を予定)
対 象 学 群 ・ 学 類	全学群(ただし、原則として体育専門学群を除く)		
担当教員(連絡先)	緩利 誠(世話人 樋口直宏 nhiguchi@human.tsukuba.ac.jp)		
オ フィ ス ア ワ ー	集中講義のため「なし」(「manaba」を通じて連絡・相談)		
授 業 の 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成に関する基本的な知識を習得する。 ・学校教育における学習指導要領の変遷、および制度上の位置付けについて、理解する。 ・「カリキュラム・マネジメント」の基本的な考え方を理解する。 		
授 業 の 概 要	<p>学校教育において、日々の授業や実践の多くは、教育課程の範疇にある。この授業では、学習指導要領、教育課程、およびカリキュラム・マネジメントについて概説し、教職に必要不可欠な基礎知識を提供する。</p>		
授 業 計 画	<p>本授業はオンライン(オンデマンド型)による集中講義として開講し、「manaba」等を使って実施・運営する。授業日(後日掲示)に授業コンテンツを数回分ずつアップし、それぞれ 2 週間程度の視聴可能期間を設ける。</p> <p>第1回 オリエンテーション / カリキュラム・教育課程・学習指導要領 第2回 教育課程編成の基本類型 第3回 アメリカ合衆国におけるカリキュラム改革の動向 第4回 教育課程行政と学習指導要領の位置付け 第5回 学習指導要領の変遷(1):1947~1958 第6回 学習指導要領の変遷(2):1967~1989 第7回 学習指導要領の変遷(3):1998~2017+ 第8回 カリキュラム・マネジメント(1):定義、歴史、基本的な考え方 第9回 カリキュラム・マネジメント(2):具体的な方法、実際 第10回 まとめ</p>		
成 績 評 価 方 法	<p>レポート課題、A4×1 枚、計 3 本。提出先は「manaba」、提出期限は初回授業時に提示。 レポートⅠ・Ⅱ各 30 点、レポートⅢ(最終課題)40 点、計 100 点の点数評価。</p>		
テ キ ス ト	根津朋実・樋口直宏(編)『教育内容・方法 [改訂版]』, 培風館, 2019 年		
参 考 文 献	<p>文部科学省(2017)『中学校学習指導要領』同(2017)『中学校学習指導要領解説 総則編』 文部科学省(2018)『高等学校学習指導要領』同(2018)『高等学校学習指導要領解説 総則編』</p>		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に関し、新聞・ホームページ等から最新の情報を収集する。 ・テキスト及び参考文献を読み、当該分野の範囲を知る。 		
受 講 学 生 に 望 む こ と	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者意識をもって、批判的かつ創造的に思考・判断・表現することを期待する。 		
備 考	旧課程の「教育内容・方法論Ⅰ」に対応。		

授 業 科 目 名	教育課程編成論 (Curriculum and the Course of Study)		
科 目 番 号	9604201	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	春 AB	曜 時 限	水曜・6 時限
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 (連 絡 先)	木村 範子 (E-mail: niida@human.tsukuba.ac.jp)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日午後(人間系棟 B401)		
授 業 の 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成に関する基本的な知識を習得する。 ・学校教育における学習指導要領の変遷、および制度上の位置付けについて、理解する。 ・「カリキュラム・マネジメント」の基本的な考え方を理解する。 		
授 業 の 概 要	<p>学校教育において、日々の授業や実践の多くは、教育課程の範疇にある。この授業では、学習指導要領、教育課程、およびカリキュラム・マネジメントについて概説し、教職に必要な基礎知識を提供する。</p>		
授 業 計 画	<p>第1回 オリエンテーション / カリキュラム・教育課程・学習指導要領</p> <p>第2回 教育課程編成の基本類型</p> <p>第3回 アメリカ合衆国におけるカリキュラム改革の動向</p> <p>第4回 教育課程行政と学習指導要領の位置付け</p> <p>第5回 学習指導要領の変遷(1):1947～1958</p> <p>第6回 学習指導要領の変遷(2):1967～1989</p> <p>第7回 学習指導要領の変遷(3):1998～2017+</p> <p>第8回 カリキュラム・マネジメント(1):定義、歴史</p> <p>第9回 カリキュラム・マネジメント(2):カリキュラム評価の考え方</p> <p>第10回 まとめ</p> <p>定期試験</p>		
成 績 評 価 方 法	授業中の課題・コメントペーパー、中間レポート、試験による総合評価。(毎時間、授業内容等について コメント等を書いて提出してもらう。)		
テ キ ス ト	『実践に活かす教育課程論・教育の方法と技術論』(樋口直宏・林尚示・牛尾直行編著:学事出版)		
参 考 文 献	<p>『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』(文部科学省)</p> <p>『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』(文部科学省)</p> <p>『現代カリキュラム研究』(山口満編著:学文社)</p> <p>『新版カリキュラム研究入門』(安彦忠彦編:勁草書房)</p> <p>『教育方法学』(佐藤学著:岩波書店)</p>		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	日ごろから新聞やニュースに目を通し、学校教育を取り巻く状況や子どもたちの状況について、関心をもつこと。学校参観や授業見学の機会があれば積極的に参加し、実際の授業や教師・子どもに接し、理解を深めることができるよう望む。		
受 講 学 生 に 望 む こ と	随時紹介する参考文献にも目を通し、教育内容・教育方法に関する課題意識を深めるよう望む。		
備 考	旧課程の教育内容・方法論Ⅰに対応。		

実施方法：オンライン（オンデマンド型）

授 業 科 目 名	教育課程編成論 (Curriculum and the Course of Study)		
科 目 番 号	9604301	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	秋 AB	曜 時 限	水曜・5 時限
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 (連 絡 先)	木村 範子 (E-mail: niida@human.tsukuba.ac.jp)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日午後(人間系棟 B401)		
授 業 の 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成に関する基本的な知識を習得する。 ・学校教育における学習指導要領の変遷、および制度上の位置付けについて、理解する。 ・「カリキュラム・マネジメント」の基本的な考え方を理解する。 		
授 業 の 概 要	<p>学校教育において、日々の授業や実践の多くは、教育課程の範疇にある。この授業では、学習指導要領、教育課程、およびカリキュラム・マネジメントについて概説し、教職に必要不可欠な基礎知識を提供する。</p>		
授 業 計 画	<p>第1回 オリエンテーション / カリキュラム・教育課程・学習指導要領</p> <p>第2回 教育課程編成の基本類型</p> <p>第3回 アメリカ合衆国におけるカリキュラム改革の動向</p> <p>第4回 教育課程行政と学習指導要領の位置付け</p> <p>第5回 学習指導要領の変遷(1): 1947～1958</p> <p>第6回 学習指導要領の変遷(2): 1967～1989</p> <p>第7回 学習指導要領の変遷(3): 1998～2017+</p> <p>第8回 カリキュラム・マネジメント(1): 定義、歴史</p> <p>第9回 カリキュラム・マネジメント(2): カリキュラム評価の考え方</p> <p>第10回 まとめ</p>		
成 績 評 価 方 法	授業中の課題・コメントペーパー、中間レポート、最終レポートによる総合評価。(毎時間、授業内容等について コメント等を書いて提出してもらう。)		
テ キ ス ト	『実践に活かす教育課程論・教育の方法と技術論』(樋口直宏・林尚示・牛尾直行編著: 学事出版)		
参 考 文 献	<p>『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』(文部科学省)</p> <p>『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』(文部科学省)</p> <p>『現代カリキュラム研究』(山口満編著: 学文社)</p> <p>『新版カリキュラム研究入門』(安彦忠彦編: 勁草書房)</p> <p>『教育方法学』(佐藤学著: 岩波書店)</p>		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	<p>日ごろから新聞やニュースに目を通し、学校教育を取り巻く状況や子どもたちの状況について、関心をもつこと。学校参観や授業見学の機会があれば積極的に参加し、実際の授業や教師・子どもに接し、理解を深めることができるよう望む。</p>		
受 講 学 生 に 望 む 事 項	随時紹介する参考文献にも目を通し、教育内容・教育方法に関する課題意識を深めるよう望む。		
備 考	旧課程の教育内容・方法論 I に対応。		

授 業 科 目 名	教育課程編成論 (Curriculum and the Course of Study)		
科 目 番 号	9604401	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	春学期	曜 時 限	集中
対象学群・学類			
担当教員(連絡先)	木村 範子 (E-mail: niida@human.tsukuba.ac.jp)		
オフィスアワー			
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成に関する基本的な知識を習得する。 ・学校教育における学習指導要領の変遷、および制度上の位置付けについて、理解する。 ・「カリキュラム・マネジメント」の基本的な考え方を理解する。 		
授業の概要	<p>学校教育において、日々の授業や実践の多くは、教育課程の範疇にある。この授業では、学習指導要領、教育課程、およびカリキュラム・マネジメントについて概説し、教職に必要な不可欠な基礎知識を提供する。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション / カリキュラム・教育課程・学習指導要領</p> <p>第2回 教育課程編成の基本類型</p> <p>第3回 アメリカ合衆国におけるカリキュラム改革の動向</p> <p>第4回 教育課程行政と学習指導要領の位置付け</p> <p>第5回 学習指導要領の変遷(1):1947～1958</p> <p>第6回 学習指導要領の変遷(2):1967～1989</p> <p>第7回 学習指導要領の変遷(3):1998～2017+</p> <p>第8回 カリキュラム・マネジメント(1):定義、歴史</p> <p>第9回 カリキュラム・マネジメント(2):カリキュラム評価の考え方</p> <p>第10回 まとめ</p> <p>定期試験</p>		
成績評価方法	<p>授業中の課題・コメントペーパー、中間レポート、試験による総合評価。(毎時間、授業内容等について コメント等を書いて提出してもらう。)</p>		
テキスト	<p>『実践に活かす教育課程論・教育の方法と技術論』(樋口直宏・林尚示・牛尾直行編著:学事出版)</p>		
参考文献	<p>『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』(文部科学省)</p> <p>『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』(文部科学省)</p> <p>『現代カリキュラム研究』(山口満編著:学文社)</p> <p>『新版カリキュラム研究入門』(安彦忠彦編:勁草書房)</p> <p>『教育方法学』(佐藤学著:岩波書店)</p>		
授業外における学習方法	<p>日ごろから新聞やニュースに目を通し、学校教育を取り巻く状況や子どもたちの状況について、関心をもつこと。学校参観や授業見学の機会があれば積極的に参加し、実際の授業や教師・子どもに接し、理解を深めることができるよう望む。</p>		
受講学生に望むこと	<p>随時紹介する参考文献にも目を通し、教育内容・教育方法に関する課題意識を深めるよう望む。</p>		
備考	<p>旧課程の教育内容・方法論Ⅰに対応。</p>		

授 業 科 目 名	教育課程編成論 (Curriculum and the Course of Study)		
科 目 番 号	9604501	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	春 AB	曜 時 限	水曜・1 時限
対 象 学 群 ・ 学 類	体育専門学群限定クラス		
担 当 教 員 (連 絡 先)	三田部 勇, 森田 司郎		
オ フ ィ ス ア ワ ー	月曜日 11:30-12:10		
授 業 の 到 達 目 標	教職を目指す学生を主な対象として、日本の教育課程に関する基礎的知識を身につけることを第一の目標とする。次に、指導と評価の一体化の考えに基づく、指導と評価の作成に関する基礎的な知識について理解を深める。さらに、カリキュラム・マネジメントの視点から、年間指導計画作成の基礎的な知識について理解を深める。		
授 業 の 概 要	学校教育において、日々の授業や実践の多くは、教育課程の範疇にある。この授業では、学習指導要領、教育課程、およびカリキュラム・マネジメントについて概説し、教職に必要な不可欠な基礎知識を提供する。		
授 業 計 画	第 1 回 ガイダンス 学校教育の役割 第 2 回 現在の日本の学校カリキュラム(1) 現在の教育改革の動向とその課題 カリキュラム・マネジメント 第 3 回 現在の日本の学校カリキュラム(2) 現在の教育問題とその対策① 第 4 回 現在の日本の学校カリキュラム(3) 現在の教育問題とその対策② 第 5 回 諸外国のカリキュラム改革 教育改革・学力低下対策など	第 6 回 教育課程編成の基本事項(1) 法令・法規 第 7 回 教育課程編成の基本事項(2) 学習指導要領の変遷① 第 8 回 教育課程編成の基本事項(3) 学習指導要領の変遷② 第 9 回 教育評価 学校評価 学力評価 カリキュラム評価 第 10 回 今後の学校教育 新しいカリキュラム編成の試み カリキュラム・マネジメント	
成 績 評 価 方 法	基本的に、授業内容について、定期試験の6割以上の理解を単位認定の基準とする。 授業への参加状況を加味し、総合的に評価する。		
テ キ ス ト	文部科学省(2017)『中学校学習指導要領(平成 29 年度告示)解説 保健体育編』 文部科学省(2018)『高等学校学習指導要領解説(平成 30 年告示) 保健体育・体育編』		
参 考 文 献	根津朋実編著(2019)『教育課程』ミネルヴァ書房 文部科学省(2017)『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』 文部科学省(2018)『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	文部科学省のホームページを活用し、学習指導要領について熟読する。		
受 講 学 生 に 望 む 事 項	教育実習及び教育現場に出るにあたって、カリキュラムに関する基本的事項を理解すること。		
備 考	旧課程の教育内容・方法論 I に対応。		